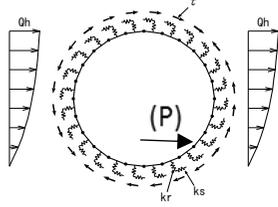
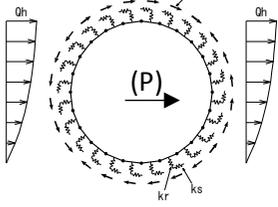


## 正誤表

頁	行・図番号	誤	正
P.13	表1-5 (上から5番目)	承諾	受理
P.31	11行目	効果反応	硬化反応
P.64	1行目	回まれ	囲まれ
P.78	1行目	<b>4.3.4.</b>	<b>4.3.3.</b>
	14行目	<b>4.3.5.</b>	<b>4.3.4.</b>
P.86	図5-15		
P.90	図5-17 (上段 左から2番目)	強度の設計強度	材料の設計強度
P.101	表5-10 (上から3、4番目)	$\phi$ 800以上 $\phi$ 1000未満L2 ◇	$\phi$ 800以上 $\phi$ 1000未満L2 ◇※2 <別図参照>
	最終行に加筆	—	※2：表面部材のかん合が外れず、設計上必要な水密性が確保できる場合は省略できる。
P.134	26行目	<b>4.3.現場硬化管(光熱硬化タイプ)</b>	<b>4.3.現場硬化管(光硬化タイプ)</b>
P.163	4行目	更隼材	更生材
P.173	10行目に加筆	20ppm以下、道路端	20ppm以下(労働安全衛生法)、道路端
		0.4~2.0ppm以下とする。	0.4~2.0ppm以下(悪臭防止法施行規則：地域用途による)とする。
参-6	表参2-1	単独管構造	自立管構造 二層構造管

(P.101の訂正内容)

誤

検討項目		構造形式	更生工法 (複合管) 単位=mm						
			φ800未満		φ800以上 φ1000未満		φ1000 以上		
			L1	L2	L1	L2	L1	L2	
重要な幹線等	マンホールと管きよの接合部	地震動による	屈曲角	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	△	△	△	△
			拔出し量	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	△	△	△	△
	管きよと管きよの継手部	地震動による	屈曲角	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	◇	◇		
			拔出し量	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	◇	◇		
	鉛直断面の強度		耐荷力			○	○	○	○
			応力度/耐力						
管軸方向の強度		応力度							

注：表中の記号は以下のとおり

○：強度計算により安全性を確認

◇：条件に応じて検討を実施

△：フレキシブルな構造等により安全性を確認

※<sub>1</sub>：表中のφ800mm未満は、一定の適用条件を満たす場合には検討を省略出来る。

正

検討項目		構造形式	更生工法 (複合管) 単位=mm						
			φ800未満		φ800以上 φ1000未満		φ1000 以上		
			L1	L2	L1	L2	L1	L2	
重要な幹線等	マンホールと管きよの接合部	地震動による	屈曲角	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	△	△	△	△
			拔出し量	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	△	△	△	△
	管きよと管きよの継手部	地震動による	屈曲角	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	◇	◇※ <sup>2</sup>		
			拔出し量	△※ <sup>1</sup>	△※ <sup>1</sup>	◇	◇※ <sup>2</sup>		
	鉛直断面の強度		耐荷力			○	○	○	○
			応力度/耐力						
管軸方向の強度		応力度							

注：表中の記号は以下のとおり

○：強度計算により安全性を確認

◇：条件に応じて検討を実施

△：フレキシブルな構造等により安全性を確認

※<sub>1</sub>：表中のφ800mm未満は、一定の適用条件を満たす場合には検討を省略出来る。

※<sub>2</sub>：表面部材のかん合が外れず、設計上必要な水密性が確保できる場合は省略できる。